

# 天平文化と建築

Tenpyō culture and architecture

奈良に都があった時代、中央集権体制の確立と唐文化の輸入により華麗な「天平文化」が花開きました。その影響は建築にも及び、巨大国家プロジェクトである東大寺大仏殿の造営を始め、薬師寺、興福寺、唐招提寺など大伽藍(だいがらん)が営まれたことで多くの傑作が残り、日本建築史の黄金時代と呼ばれています。

During the era the capital was in Nara, the splendid 'Tenpyō culture' flourished due to the establishment of a centralized system of government and importation of Tang culture. This influence extended to architecture; due to the operation of large temple complexes starting with the Great Buddha Hall at Tōdaiji—a colossal national project—along with Yakushiji, Kōfukuji, and Tōshōdaiji, many masterpieces remain, and this era is known as the golden age of Japanese architectural history.

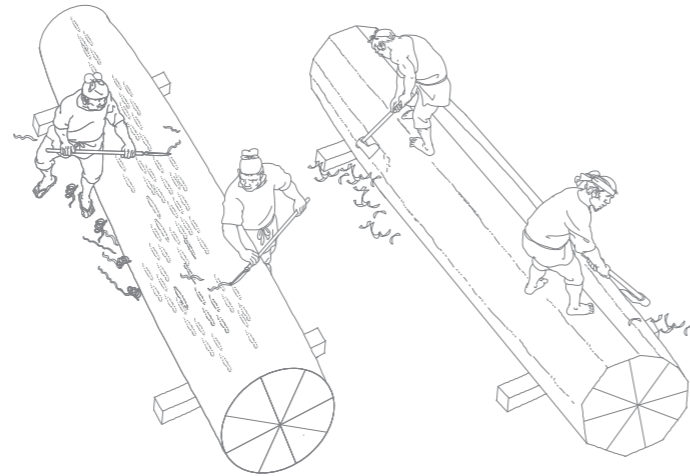


写真: 竹中大工道具館

ほつきじ  
(左)法起寺三重塔模型  
20世紀中頃、近藤豊資料、縮尺1/20、竹中大工道具館蔵  
1/20 Scale model, Hokkiji three-story pagoda  
Mid-20th century. Collection of Takenaka Carpentry Tools Museum

慶雲3年(706)頃建立。三重塔としては最も古く、規模も大きい。法隆寺五重塔の初層・三層・五層の大きさが法起寺三重塔の初層・二層・三層に等しく、法隆寺に倣ったと見られます。雲斗(くもど)・雲肘木(くもひじき)という法隆寺ならではの装飾・構造形式を持ち、白鳳・天平文化以前のデザインを知ることができます。(昭和50年修理で三重を方二間に復元)

とういんゆめどの  
(右)法隆寺東院夢殿模型  
20世紀中頃、近藤豊資料、縮尺1/20、竹中大工道具館蔵  
1/20 Scale model, Yumedono, Hōryūji Tōin  
Mid-20th century. Collection of Takenaka Carpentry Tools Museum

天平11年(739)建立。聖徳太子を追慕して創立された法隆寺東院の中心建物。八角円堂を廻廊で囲む求心性の強いデザインで、天平時代を代表する力強い建築と評されています。鎌倉時代(1230)に組物を一段加えて、野小屋(のごや)を設け、枯木を入れるという大改造を受けており、本模型はその鎌倉改造後(現状)の姿です。

